

ほのぼの苑だより

題字：安宅 ミツ子 様



施設長挨拶

小林 頭

このたび正和会小玉敏央理事長よりほのぼの苑施設長に任命されました小林頭と申します。老健に勤務させていただきましたのは初めてですので、何かと分らないところも多く、職員の方々からいろいろと教えていただきながら仕事をしております。

ほのぼの苑は開設後十数余年となり、小玉理事長の創られました理念のもとに、歴代の施設長であります、南秋田整形外科院長、並木先生、齋藤先生、小玉理事長という、私にとりましては大先輩の先生方のご指導により、全職員の真摯な努力の甲斐あって、昨年には秋田県経営品質賞優秀賞を受賞するまでに躍進しております。私は、このように隆盛に至っておりますほのぼの苑を、今後さらに充実、発展させるべく精進していきたくと存じます。具体的には、常に原点に立ち返って介護や福祉とはどうあるべきかを考え、入苑者の方々の生きがいづくりを心配りながら、自立を目標としたサービスを提供していきます。また、当苑の職員が有する知識や技能を地域に還元することで、地域医療の発展と維持に努めてまいります。さらに、私は整形外科医であります。大学の基礎医学教室の教官であったこともありますので、その経験を生かし、世界に発信できる有意義な医学研究をほのぼの苑の職員の方々と一緒に進めていきたいと考えております。

さて、中国宋時代の高名な禅僧の大慧宗杲の言葉に「勢い、使い尽くすべからず」とあります。「あまりがんびりすぎると返ってよくありませんよ」という戒めです。私も、あせらず、ゆつくりと、職員の皆様と一緒に着実に歩んでゆきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

クリスマスバイキング

十二月二十七日、ほのぼの苑食堂にて毎年恒例となったバイキングが行われました。バイキングでは人気の高く、定番メニューとなったハタハタや寿司などを中心に天ぷらや焼きそば、デザートなどを提供致しました。

バイキング当日は、皆さんに喜んでいただけたか不安でしたが、美味しいと沢山の声を頂き、笑顔も見ることが出来ました。なかには「毎日のご飯がこんなご馳走だったらいいな」と言われる方もおりました。入苑者の方々の沢山の喜ぶ姿を見ることができ、嬉しく思います。

また、今回のバイキングは家族会も含めて行ったこともあり、沢山のご家族の方に参加していただきました。料理の味はいかがだったでしょうか。入苑者の方々とご家族と一緒に食事をされている姿はとても印象的でした。

また来年も今年の至らない点を補って、より良いバイキングになるように計画をしていきたいと思えます。

(千葉 也寸志 記)



デイケア 忘年会

十二月十九〜二十一日の三日間、デイケア忘年会が行われました。通苑者の皆さんに一年間の感謝の気持ちを込めた忘年会です。

オードブルとデザートバイキングは旬のハタハタ料理を始め、煮物、カナッペ、漬物、ケーキ等、シェフによる色とりどりの料理がテーブルに並び、好きな物を好きなだけ召し上がって頂きました。甘酒も好評で「懐かしい」とおわかりされている方が多くいらっしゃいました。

ゲームも盛り上がり、見事賞品を獲得された方が感激のあまり涙ぐむ場面がありました。

最後は職員扮するサンタクロースからお一人お一人に帽子、手袋、マフラー等のプレゼントが配られ、終始賑やかな中で三日間の忘年会はお開きとなりました。

通苑者の皆さんに楽しんで頂けるかな不安で迎えた忘年会でしたが、沢山の笑顔を見る事が出来ました。今後もデイケアで楽しんで頂けるよう心掛けて、工夫していきたいと思えます。

(村上 裕子 記)



ほのぼの苑 ちよつとイイ話

「ほのぼの苑 ちよつとイイ話」
は、苑内での感動する話をご紹介します。
するコーナーです。

ちよつとイイ話

十二月の日誌・日記より

十二月二日

以前はあまり離床しなかった入苑者の方が、最近では自分から「起きたい」と話して下さるようになりました。ご飯もあまり食べようとしなかったのですが、今では全量食べる他に、おやつまで食べられ、体重も増えてきました。このようになるきっかけは、他入苑者や職員とのコミュニケーションだと思います。やはり色々な方々の会話は、意欲向上に繋がるのではないかと思います。



十二月七日

入苑者の方に「私一人でトイレに行けるようになるかしら・・・。」と聞かれました。今はまだ難しいものの、思いが強い分、リハビリの進行状況も早く、頑張る気持ちが大切なので、「ゆつくり頑張りますよ。」と話しました。本人も「まだ早いけどなあ。」と笑いながら話していましたが、私たちに出来ることがないか、色々考えていきたいと思っています。



十二月十三日

今月の二十七日に行われるバイキングで使用される「ハタハタ」を北浦漁港まで取りに行きました。入苑されている方の旦那さんより三年続けて譲っていただいておりますが、今年は二年魚で小さいと言われていましたが、十五cm〜三十cmのハタハタばかりを頂きました。朝早くから苦労して採ったハタハタを入苑者の方々が喜んで頂けるようなバイキングにしていきたいと思えます。

十二月二十二日

本日、初めていらした通苑者の方。朝は、もう生活していくのも辛いと、下を向きながらおっしゃっていました。

ところが、午前中に入浴し、皆さんとご飯を食べ、一緒に時間を過ごしていくうちに、とても良い顔で笑っていました。

午後になり、「また来てくれますか?」と伺うと、「来る・・・」と微笑みながらおっしゃってくれました。「リハビリも頑張る」と、最後には皆さんに大きな声で誓っていました。

ほのぼの苑デイケアが、通苑者の皆さまが元気になれる場所になればと心から思っています。



十二月二十七日

今日は、バイキング・家族会がありました。ご家族の方で「こういう家族会もあるんだなあ、いいなあ」と話されている方がいました。ご家族にも参加して頂けるイベントはとても貴重ですので、今日は入苑者の方にとってもとても良い一日になったのではないかと思います。



十二月二十九日

本日より外泊される入苑者の方が自宅へと向かわれました。あいにくの雨で寒かったので、徐々に自宅に帰ることが出来るということ、笑顔で戻っていました。

お正月を家で過ごし、また元気な姿で戻ってきて頂きたいと思えます。これからお正月まで外泊される方が増えますが、笑顔で見送り、笑顔で迎えたいと思えます。

第二十回 家族会 議事録

第二十回 家族会は、平成十九年十二月二十七日(日)午前十一時三十分より、食堂にて『クリスマスバイキング』の行事と合同で行われました。ほのぼの苑だよりの誌面に写真を掲載し、行事での雰囲気伝えていきたいと思っております。一月の家族会は、一月十一日 午前十時三十分より食堂にて、『新年を祝う会』の行事と合同で行いました。新年行事として餅つきや獅子舞を行いました。詳しい内容につきましては、次号のほのぼの苑だよりに掲載致します。次回の家族会は、二月一日の『節分』と合同で行います。時間等の詳細に関しては玄関、掲示板にお知らせ致します。お忙しい中とは存じますが、是非ご参加下さいますよう、ご協力よろしく申し上げます。



幸福

幸せ：一人一人幸せと感ずるものは違ふ。個人の数だけの価値観があつて、数値化できないもの。一人が思う幸せは、違ふ人には全く無意味なこともあるだろう。

私が幸せと感ずるのは：一人では味わえないこと。笑う、食べる、遊ぶ：すべて誰かと一緒に過ごしている時。それでも幸せというイメージはほんやりしている。

年末に部屋の大掃除に取りかかった。タンスの中から写真が詰まった箱が出てきた。勿論、大掃除は一旦休憩：ゆっくり腰を据えて一枚一枚眺め始めた。記憶の無い小さい頃の自分の写真。両親が営んでいる理容店の前で三輪車に乗った自慢げな顔、父親のあぐらの上でこれでもかというくらい笑顔、母親に抱きついて初めて海へ入る時の泣き顔、炊飯器を抱きかかえ素手でご飯を食べている幸せそうな顔。親からの愛情をしみじみ感じ、感謝の気持ちが湧いてきた。続々出てくる写真たち。小学・中学・高校・短大、勉強をしに行つたというよりは冒頭の笑う・食べる・遊ぶことを満喫した学生時代。仕事を始め、大人の仲間入りをした頃。そして秋田へ嫁いできた頃。あの頃は秋田でやっつけの頃か：知り合ひも数人しかいなく実家から離れていて両親・友人たちとすぐ会えない寂しさ。そして、ほのぼの苑で働き始めてからの写真が沢山出てきた。その顔を見ると楽しんで仕事をしているのだと客観的に思えた。今では秋田弁も板につき、秋田は本当に第二の故郷。今までの人生アツと云う間。幸福とか不幸とか感ずる暇もなかったが、今思えばあの頃幸せだったな、あの頃も幸せだったなと感傷に浸り、いつの間にか夕方。一階の茶の間から家族の笑い声が聞こえてきた。そこへやって来た夫。

今度は二人で写真を見ながら思い出話が始まり、今までの人生を振り返つた。その時ふと思つた。今の今まで病弱もなく家族元気でこうして語り合っている：これって、もしかして幸せ。具合が悪かったり、悩んだり、大事な人が悲しんだり、亡くなったり、不幸は不幸だと感ずることはできるが、今の幸せはなかなか実感しにくいのかも。あの頃は良かったと思ふかもしれないが、もししたら未来の自分から見ると、今の自分を幸せだったなと回想するのかもしれない。意識して見なければ、目の前の幸せは見逃してしまうのだから。気付くか気付かないか、それが幸せの鍵なのか。まずは夕飯を食べてから、箱から出した沢山の幸せを片付けることにしよう。

ボツリと一言

今号では小玉施設長に代わり、ほのぼの苑施設長へ就任しました小林 顕先生を紹介致しました。新年を祝う会に参加し、餅つきや傘回しを行つて頂き、石川事務長と初の共同作業を行つて頂いて姿を表紙に掲載致しました。

平成二十年は新体制でのスタートとなりますが、昨年以上に良いサービスの提供に努めていきたいと思つています。今年もよろしくお願ひ致します。

発行

医療法人 正和会



介護老人保健施設 ほのぼの苑

〒018-1401

秋田県潟上市昭和久保字街道下 92-1

電話 018-877-7115

FAX 018-877-7481

ホームページ

<http://www.seiwakai-akita-no1.or.jp/>

編集責任者 加藤 稔樹

発行責任者 小林 顕